

## 「詩のボクシング」とは？ (公式ホームページより) 詩のボクシング

検索

「詩のボクシング」は、ボクシングリングに見立てたステージ上で、  
2人の朗読ボクサーが交互に自作を身体全身を使って朗読し、どちらの声と言葉がより観客＝他者に届いたかをジャッジが判定する  
「声の言葉のスポーツ」、「声と言葉の格闘技」です。

音声詩人の楠かつのりが、1997年10月に日本朗読ボクシング協会 (JAPAN READING BOXING ASSOCIATION=JRBA) を発足し、  
「詩のボクシング」と銘打ち、2人の朗読ボクサーが交互に10ラウンド朗読して闘うタイトルマッチが行われたのが、その始まりです。

1999年7月には、楠かつのりが独自のルールと判定方法を考案し、日本朗読ボクシング協会のオリジナル企画として  
一般参加の「詩のボクシング」トーナメント戦を始めました。

この一般参加の「詩のボクシング」トーナメント戦が、全国各地で行われるようになり、これが「詩のボクシング」として広く認知されています。  
朗読ボクサーの年齢も幅広く、10代から80代までの老若男女が、自分の言葉と声にすることを楽しんでいます。  
また、観客も子供から大人まで幅広く、このように幅広い年齢層で楽しめる場合は、今の日本において非常に珍しいともいわれています。

## ルール (抜粋)

- 朗読ボクサーは、各試合とも青コーナーと赤コーナーに別れ、各自が制限時間3分以内に朗読を行う。  
※タッグマッチの場合は、1試合の各タッグチームの制限時間を5分とする。
- 朗読ボクサーは自作を音読する、また、独自の視点で作品化したものを声にする。
- 朗読ボクサーは、朗読原稿の代わりに小道具を使っても良い。過去に検眼表や帽子、椅子を使った朗読の例がある。
  - 朗読ボクサーはリングの外に出て朗読してはいけない。
  - マイクは用意するが、それを使うか使わないかは朗読ボクサーの判断にまかせる。
  - 朗読は肉声のみによるもので、楽器や鳴りもの、BGMは使うことはできない。
- 朗読ボクサーが制限時間を超過して朗読した場合は、レフェリーはレフェリーの判断によって、朗読を中断させることができる。

## 体験しよう・「詩ボク」!! (ワークショップの流れ)

1. 講師・楠かつのりさんの「詩のボクシングあれこれ」
2. 参加者が自作の言葉を朗読します。それにたいして、楠さんがコメント。場合によっては会場の参加者との意見交換。
3. 休憩を挟んで、後半は「詩のボクシング」トーナメント戦体験。出場者、ジャッジ、レフェリー等役割分担を決めて行います。
4. 総括と全国大会出場の認定書授与式(同時に交通費として5万円支給。会場は有楽町朝日ホール。期日は11月3日。  
ただし、模擬トーナメント戦優勝者＝全国大会出場、ではありません)

【講師】  
楠かつのり

音声詩人、映像作家。日本朗読ボクシング協会代表。1997年に「日本朗読ボクシング協会」を設立。以来代表を務め、朗読の新しい楽しみ方及び表現方法としての「詩のボクシング」を国内に広めている。著書に『からだ弾む日本語』(宝島社)、『「詩のボクシング」って何だ!?!』(新書館)、『詩のボクシング 声の力』(東京書籍)、『ビデオムービーの達人』(平凡社)、『ビデオ作家の視点』(平凡社)、映像作家詩集『ペーパービデオ・インスタレーション』(思潮社) 他。映像作品には『遠い音』(フィルムアート社)、『夏の時間』(芸術文化交流の会委嘱作品) 他。

## FAX用参加申込書 | 0234-43-4859 当日でも参加は受け付けますが、準備の関係上、3日前までに申し込んでいただくと嬉しいです

フリガナ			
氏名	年齢	性別 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	職業
住所	〒 -		
連絡先	携帯電話	電話	FAX
	E-mail		